

持続可能な地域に向けたキャリア教育の重要性

○株式会社大島組 正会員 大嶋 正寛
株式会社大島組 非会員 布施 知佳

1. はじめに

弊社のある新潟県上越市は、山林や田畑が約 50%を占め、日本有数の豪雪地である。雪解けの期間が長く、軟弱な地盤が分布しているため、日本一の地すべり多発地域と言われ、古くから地すべりの被害に悩まされている。令和元年には全国各地で猛威を振るった台風 19 号の影響により大規模な土砂災害が発生した。さらに、令和 3 年には豪雪災害にも見舞われ、市民生活に大きな影響を受けた。上越市では特に、安全・安心を守る建設業の果たす役割は大きい。そこで、上越市における建設業の雇用確保の課題とキャリア教育の重要性について考察する。

2. 建設業における雇用の実態

上越市の人口は、「自然減」及び「社会減」により毎年、約 2000 人ずつ減少している。高等学校卒業後、多くの学生が上越市を離れ、U ターンで戻ってくる若者は少ない。(図-1) さらに、建設系の高等学校を卒業しても多くの生徒が市外や建築分野外への進学・就職先を選択している。上越地域における建設業の有効求人倍率は 11.12 倍と他産業よりも高く、新規高等学校卒業生においては、求人応募に対して充足率がわずかに 10.3%であった。建設業において、深刻な人手不足が課題となっている。

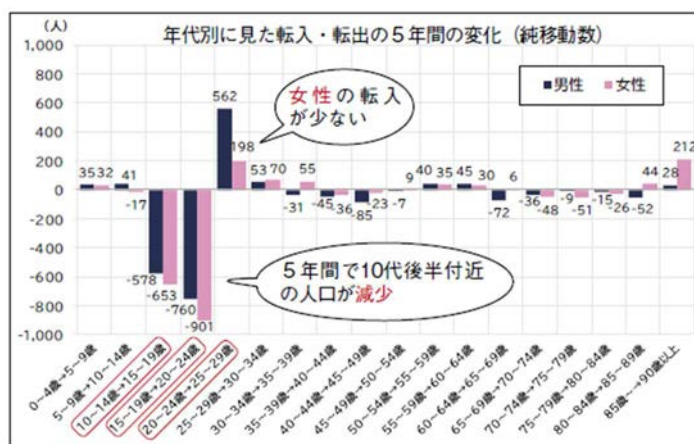


図-1 上越市における5年間の年代別転入・転出の変化¹⁾

3. キャリア教育への取り組み

弊社は、土木と建築を生業としているが、地元の中学校から「建築の話をしてもらいたい」という依頼を受けることが多く対応してきた。その際、教員から生徒への弊社紹介においては、「総合建設業」ではなく、「総合建築業」という言葉が使われる。世間に「建設」という言葉が認知されておらず、「土木」の存在も知られていないと感じた。実際に教壇に立って、土木分野の話をしてみたところ生徒たちの反応が鈍く、「土木」についての知識がないことを痛感した。自然豊かな上越地域において、土木の仕事は生活に密着しているにも関わらず知られていない。原因の一つが、建設業界が積極的な発信をしてこなかったことである。進路選択前に建設業の魅力や存在意義を知ってもらうことで、就職先としての選択肢にいれてもらうことを前提として、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。以下、取り組み内容について報告する。

(1) 地元中学校、高等学校のキャリア教育

令和4年度のキャリア教育内容を示す。

- ① 生まれ育った上越地域の魅力を再認識してもらう
- ② 土木の仕事が私たちの生活に密着していることに気づいてもらう
- ③ 魅力ある上越を守り支えていくために何が必要かを考えてもらう
- ④ 私達が生活していくうえで建設業の仕事がなくてはならないことを理解してもらう
- ⑤ モノづくりや建設に係わる作業の楽しさを体感してもらう (図-2)
- ⑥ 土木のすごさや憧れをもってもらう (図-3)



図-2 3D スキャナの体験



図-3 若手社員による講話

キャリア教育では、「伝える」ことではなく、「伝わる」ことを意識して実施した。

キーワード 建設業の存在意義、キャリア教育、地域活性化、担い手確保、伝わる

連絡先 〒942-0074 新潟県上越市石橋1丁目8番33号 株式会社大島組 TEL:025-543-4541

4. キャリア教育による効果

キャリア教育に参加した生徒からの感想を表-1 に示す。

生徒の感想からも分かる通り、キャリア教育を通じて土木について知る良い機会となったと思われる。私達の生活に必要な不可欠な仕事であることを伝えることができ、発信することの大切さを実感した。さらに、キャリア教育に参加した生徒が、令和4年春に弊社に入社した。

表-1 参加した中学生からの感想

1	建設業の仕事はなくてはならないと仕事だと感じました。そして、つくったらずっと残るのですごい仕事だと思いました。土木・建築の仕事が以前よりも好きになりました。
2	災害が起こった際に駆けつけているとおっしゃっていたことが印象に残りました。大島組の人のように地域に貢献し、人々を幸せにできる仕事に就きたいと思いました。
3	今まで土木のことを知らなかったが、興味を持ちました。カッコイイ仕事だと思いました。大島組の人はヒーローみたいだと思った。将来は建設業に就きたいです。
4	私達のあたりまえの日常や大切な命、財産を守っていてすごい仕事だなと思いました。生活を支えている人たちに感謝して過ごしたいです。
5	話を聞くまで、冬の除雪作業を建設業のみなさんがやっているのを知りませんでした。いつもありがとうございます。

5. キャリア教育実施がもたらす職員の意識改革

キャリア教育において直接、生徒の対応をした職員及びその上司の意見を聞き取ったものが、表-2 である。

表-2 講師を務めた職員とその上司の意見

直接対応した職員の感想	
40代男性	興味を持ってくれていることが嬉しかった。子ども達と話をするのは楽しかった。自分の話を聞いて建設業の世界に進みたいと思ってくれたら嬉しい。
30代女性	楽しそうにしている姿を見て、誰でも楽しめる仕事なんだと思った。
20代男性	説明をするにあたって、改めて勉強し、自分自身にも理解が深まった。真剣に聞いてくれるのが嬉しかった。
対応していた職員を身近で見ていた上司の感想	
60代男性	人に伝えるために自分も勉強したり、考えたりしたはずで、それが本人の成長にも繋がったと感じた。楽しませようという気持ちで取組んでくれているのが伝わった。
60代男性	普段なかなか見ることのない世界を見た子ども達の純粋な眼差しに触れ合えて、社員は生き生きとしていた。満足感を味わえと思う。
40代女性	現場がどんなに忙しくても、楽しそうに準備をしていた。本番は一緒に楽しんでいて、笑顔が増えたと思う。

表-2 によると、講師を務めた職員にとっての講義の経験は、本人にとって成長の機会となった。当初は、キャリア教育の受け入れに消極的な職員が多く、社内へのプラス効果については想像していなかったが、社内においても意義があることを実感した。

6. 結論と今後の課題

寄せられた感想には、「あたり前の日常や大切な命を守るすごい仕事だ」「なくてはならない仕事だ」などの声が多くあり、「土木の仕事」について知られていなかったことを改めて実感した。そして、中学校のキャリア教育の場は、建設業の仕事である土木・建築を伝える良いチャンスであると感じている。しかし、学校側の依頼に対して行っているので、まだ限られた範囲にしか伝えることができていない。このような情報発信の場を拡大していくことが必要と考えている。

豪雪地である上越地域にとって除雪作業は必要不可欠な仕事である。しかし、人手不足の影響により近年、除雪業者の数は減少し始めている。このままでは、道路除雪の対応ができない地域がでてしまう。キャリア教育を通じて、建設業の魅力や存在意義が伝わることで担い手が増え、持続可能な地域への一助となることを願っている。

今後はキャリア教育プログラムの充実を図るために、子ども達にアンケートを行い検証していきたい。

参考文献

- ・ https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/jouetsu_sabou/museum.html 新潟県「地すべり資料館」、2023年3月27日閲覧
- ・ <https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/koho-joetsu/koho-2020-5.html> 上越市「広報上越（2020年5月号）」、2023年3月23日閲覧
- ・ <https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kikaku/toukei-top.html> 上越市「統計情報」2023年3月24日閲覧
- ・ <https://jsite.mhlw.go.jp/niigata-helloworld/list/joetsu/data.html> ハローワーク上越「令和4年3月新規高等学校卒業者の就職紹介状況」「求人・求職バランスシート」、2023年3月24日閲覧